

令和 6 年度
第 3 回学校運営協議会兼
第 3 回学校関係者評価委員会

第 3 回学校関係者評価委員会資料
学校評価アンケート結果より



令和 7 年 3 月 4 日
生駒市立生駒東小学校

児童アンケート

分類	番号	項目	肯定	消極的肯定	消極的否定	否定	無回答
運動	1-①	楽しい運動 運動することは楽しいですか。	楽しい	どちらかという と楽しい	どちらかという と楽しくない	楽しくない	無回答
	1-②	休み時間の運動活動 休み時間に、外で元気にからだを動かしましたか。（委員会当番の日は除く）	毎日動かし た	ときどき動 かした（週に 3・4日）	どちらかとい うと、動かしな かった（週に1・2 日）	どちらかとい うと、動かしな かった（週に1・2 日）	無回答
	1-③	目標を明確化した体育授業への参加 体育の授業を、一生懸命できましたか。（体育の授業で、めあてをもって取り組むことができましたか。）	一生懸命で きた（でき た）	どちらかとい うとできた	どちらかとい うとできな かった	できなかった	無回答
	1-④	授業を通じての運動技能の獲得 体育の授業を通して、できることが増えたり、記録をのべたりできましたか。	たくさんふ えた（でき た）	ふえた（ど ちらかとい うとでき た）	すこしふえた（ど ちらかとい うとでき なかつた）	ふえなかつた（で きなかつた）	無回答
人権	2-①	仲間とともに活動する楽しい学校生活 友だちと いっしょに 遊んだり 勉強したりする のが楽しいですか。（低学年） 学校生活（遊び、学習、当番活動）で、友だちと ともに活動するのは楽しいですか。（中高学年）	楽しい	どちらかとい うと楽しい	どちらかとい うと楽しくない	楽しくない	無回答
	2-②	仲間とともに活動する楽しい学校生活 仲間(友達)ががんばる様子を見て「自分もが んばろう」と思うことはありますか。	よくある	ときどきある	あまりない	ない	無回答
	2-③	他者を慮った声かけ 相手のことを考えて、優しく声をかけることが できましたか。	できた	どちらかとい うとできた	どちらかとい うとできな かった	できなかった	無回答
	2-④	他者から受けた思いやりの声かけ 友だちに、優しく声をかけてもらったことはあ りますか。	かけてもら えた		あまりかけてもら えなかつた		無回答
生活	3-①	右側廊下歩行 廊下では、右側を歩くことができますか。	はい			いいえ	無回答
	3-②	生活目標を意識した学校生活 毎月の生活目標を意識し、守ろうとしています か。	はい			いいえ	無回答
	3-③	集中した清掃活動 掃除と関係のない話をせず、サイレント掃除に 取り組んでいますか。	はい			いいえ	無回答
	3-④	元気なあいさつ 自分から相手に聞こえる元気なあいさつができて いますか。	はい			いいえ	無回答
	3-⑤	生活の約束の順守 自分や相手を大切にするために、生活の約束を 守れていますか。	はい			いいえ	無回答
学習	4-①	言葉による考えや意見の表現 相手に自分の考えや意見を言葉で伝えることが できました。	できた	どちらかとい うとできた	どちらかとい うとできな かった	できなかった	無回答
	4-②	言葉による考えや意見の表現 友達の考えや意見を聞いて、考えを深めること ができました。	できた	どちらかとい うとできた	どちらかとい うとできな かった	できなかった	無回答
	4-③	話し合い活動における言語活動 話し合い活動等の中で、自分の思いを伝えたり、 相手の考えや意見を聞いたりすることができ た。	そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい うとそう思 わない	そう思わない	無回答

R6年度末 全校児童アンケート

分類	番号	全校 項目	肯定%	消極的肯定%	消極的否定%	否定%	無回答%	肯定意見 (%)	否定意見 (%)
運動	1-①	楽しい運動	79	17	2	1	0	96	4
	1-②	休み時間の運動活動	44	26	20	10	0	70	30
	1-③	目標を明確化した体育授業への参加	76	21	2	0	0	97	2
	1-④	授業を通じての運動技能の獲得	74	19	5	1	0	93	6
人権	2-①	仲間とともに活動する楽しい学校生活	86	12	1	0	0	98	1
	2-②	他者承認力と自己向上心	53	38	7	2	0	91	8
	2-③	他者を慮った声かけ	64	30	4	1	0	94	6
	2-④	他者から受けた思いやりの声かけ	92		8		0	92	8
生活	3-①	右側廊下歩行	82			18	0	82	18
	3-②	生活目標を意識した学校生活	81			19	0	81	19
	3-③	集中した清掃活動	77			23	0	77	23
	3-④	元気なあいさつ	90			9	1	90	9
	3-⑤	生活の約束の順守	96			3	1	96	3
学習	4-①	言葉による考えや意見の表現	57	33	8	1	0	90	10
	4-②	他者意見を活用した思考活動	63	30	5	1	0	93	6
	4-③	話し合い活動における言語活動	69	25	4	1	0	94	6

肯定的意見の割合が85以上

否定的意見の割合が31以上

肯定的意見の割合が90～100

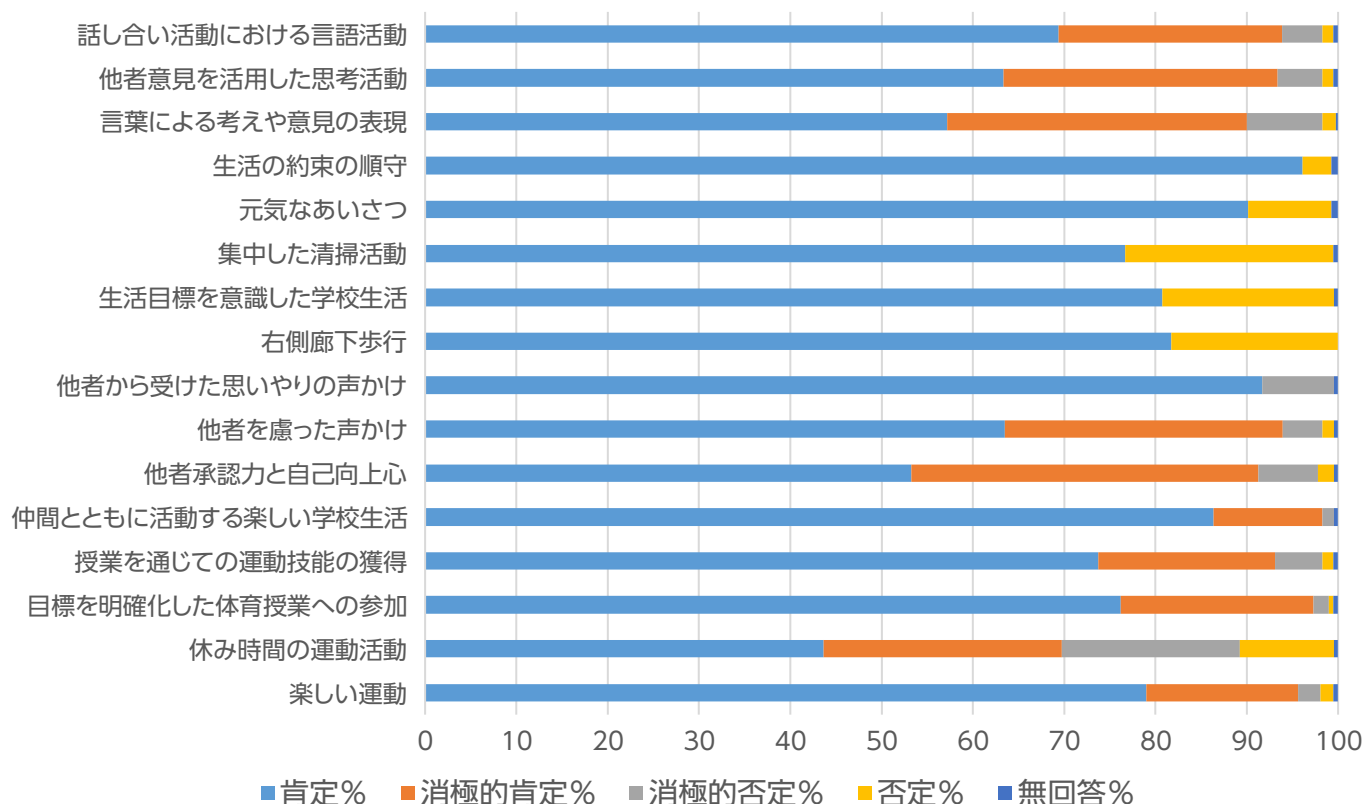
肯定的意見の割合が80～89

否定的意見の割合が41以上

否定的意見の割合が31～40

否定的意見の割合が21～30

R6年度末 全校児童アンケート



・今回の年度末アンケートで児童の肯定的意見が高い割合だった項目は、中間アンケートと比べて1項目増えて12項目であった。「楽しい運動」「目標を明確化した体育授業への参加」「授業を通じての運動技能の獲得」「仲間とともに活動する楽しい学校生活」「他者承認力と自己向上心」「他者を慮った声かけ」「元気なあいさつ」「生活の約束の順守」「言葉による考えや意見の表現」「他者意見を活用した思考活動」「話し合い活動における言語活動」の11項目と、新たに「他者から受けた思いやりの声かけ」が増え、いずれも90%以上の児童が肯定的な評価をしている。16項目中12項目で90%以上の達成率であり、今年度の教育活動においては大きな問題は無く、概ね安定した教育活動が展開されていたといえる。来年度の教育活動においても、これらの点を大事にして教育活動を進めていきたい。その中でも「楽しい運動」「目標を明確化した体育授業への参加」「仲間とともに活動する楽しい学校生活」「生活の約束の順守」の4項目は、95%以上の児童が肯定的な評価をしており、全ての学年で高い達成率であった。これらの項目については、今年度の教育活動において十分達成できたといえる。とりわけ「仲間とともに活動する楽しい学校生活」は、達成率100%の学年が2つあり、達成率99%の学年が2つあった。このことから、多くの児童が仲間とともに活動することに楽しさを見出し、充実した学校生活を送っていると思われる。これからの教育活動においても、仲間と協働する教育活動を展開していきたいと考える。

分類	番号	項目	肯定的意見(%)							否定的意見(%)							無回答(%)						
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校
運動	1-0	楽しい運動	100	96	97	99	94	90	96	0	0	3	1	6	10	4	0	0	2	0	0	0	0
	1-2	休み時間の運動活動	95	86	66	82	57	46	70	5	11	34	18	43	54	30	0	0	2	0	0	0	0
	1-3	目標を明確化した体育授業への参加	98	95	97	99	98	98	97	2	2	3	1	2	2	2	0	0	2	0	1	0	0
	1-4	授業を通じての運動技能の獲得	95	84	98	99	98	85	93	5	12	2	1	2	15	6	0	0	2	0	0	1	0
人権	2-0	仲間とともに活動する楽しい学校生活	96	95	100	99	99	100	98	4	2	0	1	1	0	1	0	0	2	0	0	0	0
	2-2	他者承認力と自己向上心	91	89	90	91	94	90	91	9	7	10	9	6	10	8	0	0	2	0	0	0	0
	2-3	他者を慮った声かけ	95	89	92	96	95	95	94	5	7	8	4	5	5	6	0	0	2	0	0	0	0
	2-4	他者から受けた思いやりの声かけ	89	82	88	94	95	96	92	11	14	12	6	5	4	8	0	0	2	0	0	1	0
生活	3-0	右側廊下歩行	84	77	85	75	83	86	82	16	23	15	25	17	14	18	0	0	0	0	0	0	0
	3-2	生活目標を意識した学校生活	95	81	80	82	80	71	81	5	16	20	18	20	29	19	0	4	2	0	0	0	1
	3-3	集中した清掃活動	82	74	71	75	78	79	77	18	23	29	25	22	21	23	0	2	3	0	0	1	1
	3-4	元気なあいさつ	93	91	97	85	92	85	90	7	5	3	13	8	15	9	0	0	0	0	0	0	0
	3-5	生活の約束の順守	96	93	98	91	99	98	96	4	4	2	7	1	2	3	0	2	0	0	0	0	0
学習	4-0	言葉による考えや意見の表現	89	82	93	91	90	93	90	11	16	7	9	10	7	10	0	0	2	0	0	0	0
	4-2	他者意見を活用した思考活動	91	93	90	94	93	98	93	9	4	10	6	7	2	6	0	0	2	0	0	0	0
	4-3	話し合い活動における言語活動	93	95	97	96	92	93	94	7	2	3	4	8	7	6	0	0	2	0	0	0	0

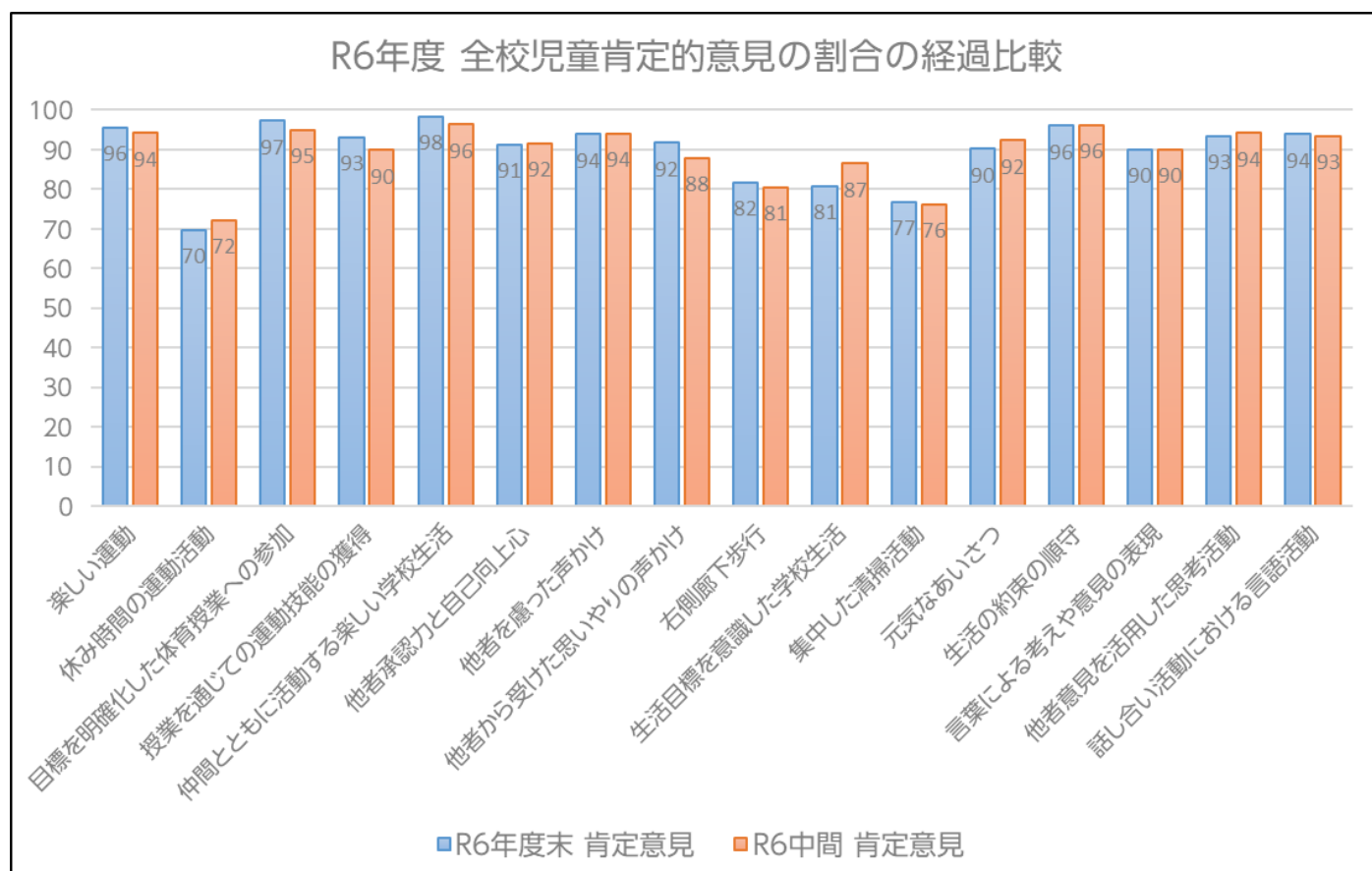
否定的意見21~30%

・肯定的意見の割合が高い項目が一番多い学年は1年生で、16項目中、全項目で肯定的な評価をしている。2年生、3年生、4年生、5年生は16項目中14項目で肯定的な評価をし、6年生は、16項目中13項目で肯定的な評価をしている。1年生と2年生については、中間期と比べ肯定的評価をする項目が増えており、1年生は項目全体で評価が上昇していた。また、2年生は、中間期と比べて肯定的意見の割合が高い項目が2項目増えたが、いずれも達成率が10ポイント近く上昇しており、後半の教育活動において取組の改善が重点的に図られたといえる。各学年の肯定的評価の項目を見てみると、低学年ほど肯定的意見の割合が高い項目が多く、高い評価をしていることがわかる。しかし、学年が上がるにつれその数は減り、評価も低くなっている。これは、学年が上がるにつれて児童が自分自身を俯瞰できるようになり、評価も厳しくなっているということが原因の1つとして考えられ、児童の成長とも捉えられる。しかし、今よりも楽しく充実した学校生活を送るために、また、児童が自身を認められるといった自己肯定感の獲得のために、各項目で肯定評価が多いことがよいのは言うまでもないことである。来年度、引き続き低評価であった項目に重点的に取り組み、改善を図っていきたい。

R6年度 全校児童肯定的意見の割合の経過比較

分類	全校肯定的意見の割合経過比較		R6年度末	R6中間	R6年度末	R6中間
	番号	項目	肯定意見	肯定意見	否定意見	否定意見
運動	1-①	楽しい運動	96	94	4	6
	1-②	休み時間の運動活動	70	72	30	28
	1-③	目標を明確化した体育授業への参加	97	95	2	5
	1-④	授業を通じての運動技能の獲得	93	90	6	10
人権	2-①	仲間とともに活動する楽しい学校生活	98	96	1	3
	2-②	他者承認力と自己向上心	91	92	8	8
	2-③	他者を慮った声かけ	94	94	6	6
	2-④	他者から受けた思いやりの声かけ	92	88	8	12
生活	3-①	右側廊下歩行	82	81	18	19
	3-②	生活目標を意識した学校生活	81	87	19	13
	3-③	集中した清掃活動	77	76	23	23
	3-④	元気なあいさつ	90	92	9	8
	3-⑤	生活の約束の順守	96	96	3	4
学習	4-①	言葉による考えや意見の表現	90	90	10	10
	4-②	他者意見を活用した思考活動	93	94	6	6
	4-③	話し合い活動における言語活動	94	93	6	6
		改善が見られた項目（10ポイント以上の上昇）			肯定的意見の割合が90～100	
		改善が見られた項目（10ポイント未満の上昇）			肯定的意見の割合が80～89	
		改善が必要な項目（否定意見の割合が高く、下降）			否定意見の割合が41以上	
		注意が必要な項目（5ポイント以上の下降）			否定意見の割合が31～40	
					否定意見の割合が21～30	

・否定的意見が高い割合だった項目は、中間期と同じく「休み時間の運動活動」「集中した清掃活動」の2項目で、それぞれ30%、23%の児童が、否定的な回答をしていた。「休み時間の運動活動」について、中間期と比べて達成率が上昇した学年は、4年生と6年生で、それぞれ、7ポイント、3ポイント上昇していた。それに対して、中間期と比べて達成率が下降した学年は、2年生、3年生、5年生で、それぞれ、10ポイント、6ポイント、12ポイント下降していた。中間期と比べて達成率が変わらなかった学年は1年生で、95%の達成率であった。全体では2ポイントの下降で、全体的な改善には至らなかった。児童の体力向上をねらいとして、本校では休み時間の外遊びをすすめているが、高学年を中心になかなか達成できていないことが明らかとなった。特に高学年は、普段の委員会活動のため、なかなか自由に休み時間を使うことができないといったことが原因の一つとして考えられる。また、2学期は運動会や音楽会といった行事に向けて、高学年は中休みや昼休みに活動しなければならないことが多く、休み時間がとれなかったということも原因としてあげられる。さらに、成長に伴い、友だちとの関係性の持ち方にも変化が現れ、外で遊ぶことだけが友達との関係性を築く手段ではなくなってくることも原因として考えられる。考えられるこれらの原因を踏まえたうえで、本校の今年度の重点目標である「体力づくりの推進 ～苦手であっても運動やスポーツが楽しいと感じている～」を達成するために、従来の休み時間の運動活動の推進に加え、体育部が実施提案している全員参加の「朝の運動」(1学期は走運動、2学期は長縄・短縄、3学期はボール運動)の充実を図っていきたい。



「集中した清掃活動」について、中間期と比べて達成率が上昇した学年は、2年生、4年生、6年生の3学年で、それぞれ、6ポイント、3ポイント、8ポイント上昇していた。中間期と比べて達成率が下降した学年は、3年生、5年生で、それぞれ、9ポイント、5ポイント下降していた。中間期と比べて達成率が変わらなかった学年は1年生で、82%の達成率であり、全体では1ポイント上昇していた。この項目については、達成率が80%には届かなかったが、わずかではあるが達成率が上昇していることから、後半の教育活動において取組の改善が図られたといえる。

今回のアンケートで注意が必要な項目は、「生活目標を意識した学校生活」である。中間期と比べ、達成率が5ポイント下降していた。達成率が上昇したのは1年生のみで、他の学年は3～6ポイント下降していた。中でも6年生は下降率が高く、16ポイントの下降が見られた。毎月の生活目標を意識して学校生活を送ることが、充実した学校生活を送ることにつながるということを、あらためて児童らに伝えていきたいと考える。

教員アンケート

R6年度 学校評価

番号	評価項目	あてはまる(%)	どちらかといえばあてはまる(%)	どちらかといえばあてはまらない(%)	あてはまらない(%)
1	学校教育目標達成のため、教職員の協力により学校運営をしている。	A	B	C	D
2	教育課程にのっとり、授業を計画的に進めている。	A	B	C	D
3	個人情報の観点から、児童の個人情報に関する管理をしている。	A	B	C	D
4	校務分掌は、学校運営上、効果的に機能している。	A	B	C	D
5	会議は、能率的・建設的に行われている。	A	B	C	D
6	体育で体力作りに取り組んでいる。	A	B	C	D
7	運動タイムで体力作りに取り組んでいる。	A	B	C	D
8	朝のストレッチを継続的に取り組んでいる。	A	B	C	D
9	児童理解をより深めるために、児童としっかりコミュニケーションをとり、悩みや不安を抱える児童の相談にのっている。	A	B	C	D
10	児童が進んで挨拶するよう指導している。	A	B	C	D
11	児童が落ち着いて学校生活を送れるように指導している。	A	B	C	D
12	いじめのない、あたたかい学級づくりに取り組んでいる。	A	B	C	D
13	実態に応じた特別支援教育に取り組んでいる。	A	B	C	D
14	学びの意欲を喚起する授業の工夫に努めている。	A	B	C	D
15	考えや気持ちを伝え合う力を養う授業を目指している。	A	B	C	D
16	タブレットを効果的に使用した指導方法の工夫に努めている。	A	B	C	D
17	校舎内外の施設設備について定期的に点検し、結果を的確に処理している。	A	B	C	D
18	危機管理（防犯、災害）を適切に行っている。	A	B	C	D
19	教室・トイレ・花壇・掲示板など、環境を整備し、学校の美化に努めている。	A	B	C	D
20	学校だより、学年・学級通信、ホームページ等を通じて、教育活動について広報している。	A	B	C	D
21	教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす体制を整えている。	A	B	C	D
22	授業参観、懇談等で児童の様子を伝えている。	A	B	C	D
23	保護者の願いを受け止め、応えようとしている。	A	B	C	D

R6 年度末 教員アンケート

番号	全教員	あてはまる(%)	どちらかといえばあてはまる(%)	どちらかといえばあてはまらない(%)	あてはまらない(%)	肯定意見(%)	否定意見(%)
	項目						
1	学校教育目標達成を目指した学校運営	33.3	66.7	0	0	100	0
2	教育課程にのっとった教育活動	41.7	50.0	8.3	0	92	8.3
3	個人情報の適切な管理	66.7	33.3	0	0	100	0
4	機能的な校務分掌	8.3	58.3	25.0	8.3	67	33
5	能率的・機能的な会議	25.0	58.3	16.7	0	83	17
6	体育科における体力づくりの実施	75.0	25.0	0	0	100	0
7	運動タイムでの体力づくりの実施	50.0	41.7	8.3	0	92	8.3
8	朝のストレッチの継続実施	75.0	16.7	8.3	0	92	8.3
9	深い児童理解のための児童とのコミュニケーション活動 (悩みや不安を抱える児童の相談にのる)	66.7	33.3	0	0	100	0
10	児童へのあいさつ指導	58.3	41.7	0	0	100	0
11	落ち着いた学校生活のための指導	83.3	16.7	0	0	100	0
12	いじめのない、あたたかい学級づくり	75.0	25.0	0	0	100	0
13	実態に応じた特別支援教育	33.3	66.7	0	0	100	0
14	学びの意欲を喚起する授業の工夫	58.3	41.7	0	0	100	0
15	考えや気持ちを伝え合う力を養う授業	66.7	33.3	0	0	100	0
16	タブレットを効果的に使用した指導方法の工夫	58.3	33.3	8.3	0	92	8.3
17	施設設備の定期的点検、及び結果の的確処理	41.7	50.0	8.3	0	92	8.3
18	適切な危機管理（防犯、災害）	33.3	66.7	0	0	100	0
19	学校の環境整備・美化	58.3	41.7	0	0	100	0
20	教育活動についての広報 (学校だより、学年・学級通信、HP)	66.7	33.3	0	0	100	0
21	地域の教育力を生かす体制（地域人材・施設）	33.3	50.0	16.7	0	83	17
22	児童の様子を伝える参観・懇談	50.0	50.0	0	0	100	0
23	保護者の願いを受け止めた教育活動	66.7	33.3	0	0	100	0

肯定的意見の割合が80以上

否定的意見の割合が31以上

肯定的意見の割合が90～100

肯定的意見の割合が80～89

否定的意見の割合が41以上

否定的意見の割合が31～40

否定的意見の割合が21～30

教員アンケートの考察

・23項目中22項目で肯定的意見が80%以上であった。そのうち「能率的・機能的な会議」「地域の教育力を生かす体制(地域人材・施設)」の2項目は達成率が83%であったが、他の20項目は達成率が9割を超えており、達成率が100%だったものは15項目もある。この結果から、本校の教員は、今年度の教育活動をはじめとした学校運営について肯定的に捉え、高く評価していることがわかる。各々の教員が、中間期のアンケートの結果を踏まえて教育活動に取り組み、年度末の児童アンケートの結果からもわかるように後半の教育活動で改善が図られたことから、このように高評価であったと思われる。

・否定的意見が30%を超えたのは、「機能的な校務分掌」の1項目であった。これは、校務分掌が学校運営上、効果的に機能しているかの評価項目であるが、多くの教員が課題であると感じていることがわかる。今年度、本校は、4つの学年で1学年2学級であり、1学年に3学級あるのは5年生と6年生の2つの学年だけである。いわゆる小規模校に近い状態であるが、校務分掌は1学年4学級の中規模校のままの状態であり、学校運営上、効果的に機能しているとは言い難い状態であった。そこで、来年度の校務分掌については、小規模校の教員数で機能するものへと改編する予定である。

・各々の教員が、中間期のアンケート結果を踏まえて取組の改善を試みるなど、本校の学校評価におけるPDCA サイクルはしっかりと機能していると考えられる。「能率的・機能的な会議」「地域の教育力を生かす体制(地域人材・施設)」については、次年度、取組の強化を図り、なお一層の充実を目指していきたいと考える。

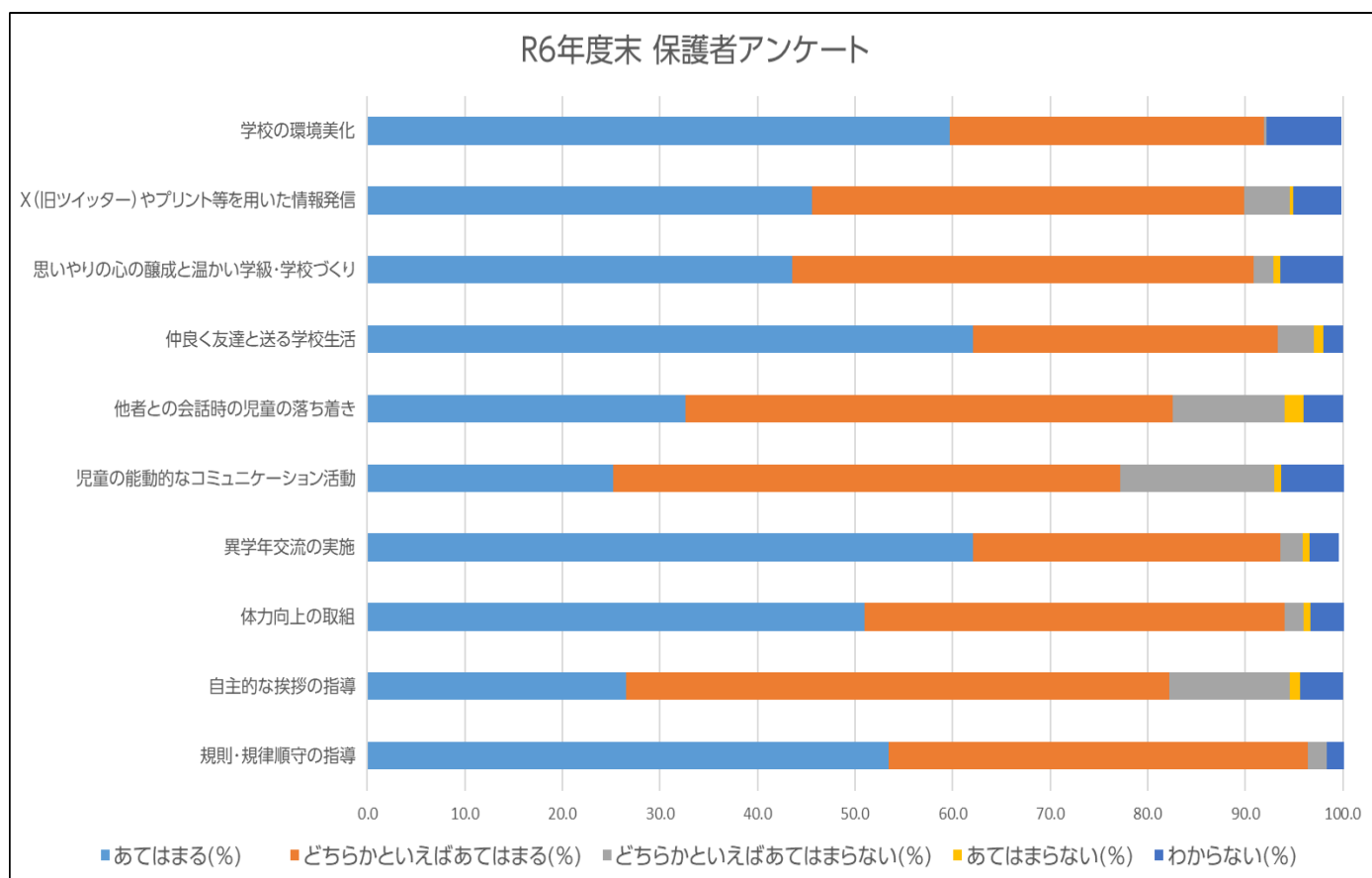
保護者アンケート

R6年度 学校運営保護者アンケート

番号	評価項目	あてはまる (%)	どちらかとい えばあて はまる(%)	どちらかとい えばあて はまらない (%)	あてはまら ない(%)	わからない (%)
1	規則・規律順守の指導 自分や相手を大切にするためにルールを守って生活しようとしている。 (R5子どもは、交通ルールを守って登下校をしている。)	A	B	C	D	E
2	自主的な挨拶の指導 子どもは、自分から相手に伝わるあいさつをしようとしている。 (R5子どもは、あいさつを進んでしている。)	A	B	C	D	E
3	体力向上の取組 学校は、体育の学習や運動タイム、行事等を通して、子どもの体力向上に取り組んでいる。	A	B	C	D	E
4	異学年交流の実施 学校は、縦割り活動を中心に行事などを通して、異学年との交流を深めている。	A	B	C	D	E
5	児童の能動的なコミュニケーション活動 子どもは、進んで自分の気持ちや考えを伝え合おうとしている。 (R5子どもは、授業の中で、仲間と意見や考えを伝え合うことに喜びや楽しさを感じている。)	A	B	C	D	E
6	他者との会話時の児童の落ち着き 子どもは、落ち着いて、人の話を聞いたり、自分の考えを話したりするようになってきている。	A	B	C	D	E
7	仲良く友達と送る学校生活 子どもは、友だちと仲良く学校生活を送っている。	A	B	C	D	E
8	思いやりの心の醸成と温かい学級・学校づくり 学校は、子どもたちに思いやりの心を持たせ、あたたかい学級づくり・学校づくりに取り組んでいる。	A	B	C	D	E
9	X（旧ツイッター）やプリント等を用いた情報発信 学校（学年、学級）は、X（旧ツイッター）やプリント等を使って子どもたちの様子を伝えている。	A	B	C	D	E
10	学校の環境美化 学校は、季節の花々の栽培を中心に、環境美化に努めている。	A	B	C	D	E

R6年度末 保護者アンケート

番号	全教員	あてはまる (%)	どちらかとい えばあて はまる(%)	どちらかとい えばあて はまらない (%)	あてはまら ない(%)	わからない (%)	肯定 意見 (%)	否定 意見 (%)
	項目							
1	規則・規律順守の指導	53.4	43.0	2.0	0.0	1.7	96.4	2.0
2	自主的な挨拶の指導	26.5	55.7	12.4	1.0	4.4	82.2	13.4
3	体力向上の取組	51.0	43.0	2.0	0.7	3.4	94.0	2.7
4	異学年交流の実施	62.1	31.5	2.3	0.7	3.0	93.6	3.0
5	児童の能動的なコミュニケーション活動	25.2	52.0	15.8	0.7	6.4	77.2	16.5
6	他者との会話時の児童の落ち着き	32.6	50.0	11.4	2.0	4.0	82.6	13.4
7	仲良く友達と送る学校生活	62.1	31.2	3.7	1.0	2.0	93.3	4.7
8	思いやりの心の醸成と温かい学級・学校づくり	43.6	47.3	2.0	0.7	6.4	90.9	2.7
9	X(旧ツイッター)やプリント等を用いた情報発信	45.6	44.3	4.7	0.3	5.0	89.9	5.0
10	学校の環境美化	59.7	32.2	0.3	0.0	7.7	91.9	0.3



保護者アンケートの考察

・質問項目は、全部で10項目であったが、9項目で肯定的意見の割合が8割を超え、全体的に高い評価をもらった。その中でも「規則・規律順守の指導」「体力向上の取組」「異学年交流の実施」「仲良く友達と送る学校生活」「思いやりの心の醸成と温かい学級・学校づくり」「学校の環境美化」の6項目は達成率が9割を超え、多くの保護者が本校の教育活動や学校運営について理解をし、肯定的に捉えていることが分かった。このことから、今年度の学校運営において、目標は達成できたのではないかと考える。次年度もさらに取組を進め、教育活動の充実を図っていきたい。

・否定的意見の割合が高いというわけではないが、肯定的意見がそれほどまで高くない項目は、「子どもは、進んで自分の気持ちや考えを伝え合おうとしているか」を問うた「児童の能動的なコミュニケーション活動」である。この項目の肯定的意見の割合は77.2%で否定的意見の割合は16.5%、「わからない」が6.4%であった。同じく伝え合う活動について問うた児童アンケートの「相手に自分の考えや意見を言葉で伝えることができた。」の「言葉による考えや意見の表現」は、達成率が90%であり、「話し合い活動等の中で、自分の思いを伝えたり、相手の考えや意見を聞いたりすることができた。」の「話し合い活動における言語活動」は、達成率が94%である。このことから、児童は、学校では友達や仲間とともに活発に意見交換ができていますが、家庭で見せる姿は違うのではないかとと思われる。保護者アンケートで「わから

保護者の肯定的意見の割合経年比較

番号	項目	R6保護者 肯定意見	R5保護者 肯定意見	R6保護者 否定意見	R5保護者 否定意見
1	規則・規律順守の指導	96.4	98.1	2.0	0.5
2	自主的な挨拶の指導	82.2	79.9	13.4	18.0
3	体力向上の取組	94.0	89.0	2.7	5.4
4	異学年交流の実施	93.6		3.0	
5	児童の能動的なコミュニケーション活動	77.2	82.7	16.5	9.6
6	他者との会話時の児童の落ち着き	82.6	86.2	13.4	10.0
7	仲良く友達と送る学校生活	93.3	97.2	4.7	3.0
8	思いやりの心の醸成と温かい学級・学校づくり	90.9	91.8	2.7	2.3
9	X(旧ツイッター)やプリント等を用いた情報発信	89.9	86.7	5.0	4.7
10	学校の環境美化	91.9	94.2	0.3	0.9
	改善が見られた項目(10ポイント以上の上昇)		肯定的意見の割合が90~100		
	改善が見られた項目(10ポイント未満の上昇)		肯定的意見の割合が80~89		
	改善が必要な項目(否定意見の割合が高く、下降)		否定的意見の割合が41以上		
	注意が必要な項目(5ポイント以上の下降)		否定的意見の割合が31~40		
			否定的意見の割合が21~30		

ない」が6.4%ということも併せて考えると、今後は、児童の伝え合う学習の姿を今まで以上に家庭へ周知していく必要があると思われる

・肯定的意見の割合を経年比較してみると、上昇した項目は3項目で、下降した項目は6項目である。一見、評価が下がったように感じるが、6項目中4項目は下降してもなお90%越えの達成率であり、下降幅もわずかであることから、それ程問題にすることではないかと思われる。しかし、「児童の能動的なコミュニケーション活動」については、昨年度に比べて5.5ポイント下降しているうえに達成率が8割に満たないというところから、注意が必要であると思われる。先述の通り、保護者に向けて、なお一層の周知を図っていききたい。

